

# 1. 評価報告概要表

作成日平成20年12月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079600526
法人名	医療法人 長主病院
事業所名	グループホーム 光
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡川崎町大字田原 1121 (電話) 0947-72-7410

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年1月9日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	11人, 非常勤 2人, 常勤換算 13人

### (2) 建物概要

建物形態	併設(単独)	(新築)改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)長主病院 井手口歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの窓より外を眺めると、遠くには山々を臨むことが出来、建物の周辺は田園に囲まれている。敷地内には畑や花壇も作られ、季節の野菜や花等を楽しめて、四季折々の景色を堪能することが出来るホームである。また、病院に併設されていることもあり、医療面でのサポート体制も整っているため、利用者をはじめ、職員も安心して日々の生活を送ることが出来ている。地域と共に「ゆっくり笑顔で自分らしく」という理念のもとに、利用者がいかに穏やかに毎日を過ごせるか、また家族として、自分の居場所として、ホームで快適な生活を送ってもらえるかを念頭に置き支援をしている。暖かい日差しが差し込むリビングで、利用者同士、談笑しながら過ごしている姿を見て、理念に沿って支援されていることを窺い知る事が出来た。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善項目については、施設長と職員で検討、話し合いを行い、改善できるものや必要と思うものについては、積極的に取り組みを行い改善を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、施設長と介護支援専門員、責任者で話し合って作成しており、一般の職員に対しては、外部評価の結果が出てから、改善点等について話し合いを行う予定である。自己評価は、これまでの業務を振り返る場として実施していくことが必要である。それらの意義を職員全員が十分理解した上で、取り組んでいくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	区長や老人会会長、公民館長、警察署 役場職員、及び利用者家族の代表等が参加して、3ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらって、双方の情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族が面会に来られた際に、意見や不満等を聞くようにしている。家族とはコミュニケーションが密にとられており、思ったことは何でも話が出来ような関係作りが出来ている。しかし、今後、直接言いにくいことも出てくる可能性もないとは言えないので、希望や意見を吸い上げる方法(例えば意見箱の設置等)を検討していくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域で行われている文化祭や子供会の餅つき等の行事や清掃活動等、積極的に参加しながら、地域の人達との交流を図っている。また、地域の方や保育園児がボランティアで踊りを披露しに来てくれたりすることもあり、お互い行き来し合っている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したサービスを提供できるようこの思いを込め、職員全員で意見を出し合って、「地域と共にゆっく笑顔で自分らしく」という理念を作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員に対して施設長が折に触れ話をし職員にも浸透しており、常日頃理念の実践を心がけている。職員の利用者への対応も笑顔でゆったりしており理念を実践している姿が見られた。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域で行われている行事や清掃活動等、積極的に参加しながら、地域の人たちとの交流を図っている。また、地域の方や保育園児がボランティアで踊りを披露しに来てもらうこともあり、お互い行き来し合っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、施設長と介護支援専門員、責任者で話し合って作成しており、一般の職員に対しては、外部評価の結果が出てから、改善点等について話し合いをする予定である。昨年の改善事項についても、みんなで話し合いを行い、改善できる部分については、取り組みを行った。	○	自己評価は、これまでの業務を振り返る場として実施していく必要がある。それらの意義を職員全員が十分理解した上で取り組んでいくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や老人会会長、公民館長、警察署 役場職員、及び利用者家族の代表等が参加して、3ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。		

グループホーム 光

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か問題があれば、その都度役場の窓口足を運び、相談を持ちかけている。担当者とのコミュニケーションも取れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	年に1回程度、勉強会を開催し、制度についての知識を深めている。また、パンフレット等も常備しており、相談があれば対応することが出来る。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	頻りに面会に来られる家族が多いため、面会時に利用者の状態を報告するようにしている。またホーム便りも作成して配布している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際に、意見や不満等を聞くようにしている。家族とはコミュニケーションが密に取られており、思ったことは何でも話しが出来るような関係づくりが出来ている。	○	今回の家族アンケートにて、家族の希望が記載されているケースが数件あった。今後、直接言いにくいことも出てくる可能性もないとは言えないので、希望や意見を吸い上げる方法を(例えば意見箱の設置等)検討していくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力異動は行わないようにしている。退職等により職員が入れ替わる時には、必ず2~3週間程度引継ぎの期間を設けて、利用者のダメージを最小限に留めることができるように配慮している。		

グループホーム 光

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人本人の資質やグループホームに向いているかどうかというところを重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育については、ミーティングや日々の業務の中で実践に基づいた形で話しをするようしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>母体の病院での研修に参加したり、内部研修として、介護の方法を学んだりする時間を持っている。また、ホームに研修案内が来た際は、その都度職員に対して参加の呼びかけを行っている。ただ、今のところ事前に計画を立てて研修を行うところには至っていない。</p>	○	<p>職員のスキルや段階に応じて、研修を受講することが出来るように、事前に計画を立てておくことが求められる。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>少し離れた場所にあるグループホームとの交流はあるが、近隣地域にあるグループホームとの交流というものは、今のところ行われていない状況である。</p>	○	<p>事業所の質の確保のためには、同業者との交流や連携が不可欠であることを運営者が認識し、職員同士の交流や連携を行えるような具体的な取り組みが必要になってくるのではないだろうか。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に見学に来てもらって、本人、家族共に納得してもらった上で、入居を決定している。利用者に対する職員のかかわり方や配慮により通常3日もすれば、ホームに馴染んでもらえるようである。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に対して、もし自分だったら・・・、自分の家族だったら・・・と思いながら接するように心がけている。また、利用者からいろいろと教えてもらうことも多く、お互い支えあいながら、関係を築きあげている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の会話の中から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等を探りながら、アプローチを行っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>施設長、介護支援専門員及び担当職員で話し合いを行いながら、計画を作成しているが、家族の意向については、介護認定の更新時期にのみ聞き取りを行っている状況である。また計画に対する同意も、特に内容に変更がなければ、更新時期にのみ取るようになっている。</p>	○	<p>職員側の視点も大切だが、家族の現状や意向も当然大切にしながら、利用者がよりよく暮らす支援として何が必要か、家族と共に利用者本意の検討を行うことが必要ではないだろうか。3ヶ月毎に作成し直しているのなら、家族にもその都度意見を聞き、作成後には同意をもらうようにしていくことが求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。また、状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにはしているが、モニタリングの結果を記録に残していない。</p>	○	<p>記録として残っていないと、どのような評価を行った上で計画が変更したのかがわからないので、今後はきちんと記録として残しておいてほしい。また、見直しを行う際には、職員をはじめ、利用者本人、家族とも話し合いを行いながら取り組んでいくことが求められる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、状況に合わせて支援をしている。受診の介助や買い物等、臨機応変に対応している。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診をいっている利用者もいれば、協力医の受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者と家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を重要事項説明書の中に盛り込んでおり、事前に説明を行い、同意の記名・捺印ももらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも話し合いながら対応している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても鍵がかかる部屋で管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいはしないように対応している。起床時間や就寝時間、食事の時間等もなるべくそれぞれのペースに沿っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応時間帯を決めてはいるが、利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が出来ることが、いつの間にかそれぞれの役割となっており、職員が誘導しなくても、それぞれが自分のペースで自然に行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、近所まで散歩に行ったり、買物等に出掛けている。また時にはドライブにも出掛けることもあり、積極的に戸外にでる機会を持っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切鍵をかけないようにしており、職員による見守りにて対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からも来てもらった上で、年に1回避難訓練を行っている。その際には夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時々、母体病院の栄養士に栄養指導を受けたり 献立をチェックしてもらいながら、栄養のバランスが取れた食事を提供している。また、食事や水分の摂取量も必要に応じてチェック表に記載するようにしており、それぞれの状態に応じて支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓やイス、ソファ等、一般の家庭で使用しているようなものが置かれており、心地よく過ごせる空間づくりがなされている。またところどころに生花も飾られていて、季節を感じることもできる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具が持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		